

令和6年度静岡県緑化推進有識者会議 委員意見（要約版）

日 時：令和6年8月20日（火）

場 所：静岡県庁

1 出席委員

所 属 職 名	氏 名	緑化推進 有識者会議
一般社団法人公園管理運営士会 専務理事・事務局長	飯塚 克身	委 員
工学院大学 建築学部教授	西森 陸雄	委 員
静岡大学 地域創造学環教授	水谷 洋一	座 長
やざわ花育種株式会社 代表取締役 葉乃畑合同会社 代表	矢澤 秀成	委 員
静岡県教育委員会前委員	渡邊 靖乃	委 員

（五十音順）

2 発言内

●取組番号1 緑化資材の提供（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
価格高騰により球根の入手が困難になっているが、これから更なる値上がりが見られる。従来のオランダ産のものではなく、新潟や富山など国産の球根を活用すると良く、仕入れる時期は4月など早めの時期が良い。また、グリーンバンクが行っている緑化資材の提供については、毎年度同じものにならないよう種類を変えた方が良くはないか。また、県の絶滅危惧種に近いものを増やして供給するなど、一般的なものよりも静岡県にまつわるものを配布した方が良くはないか。	矢澤委員
毎年度同じ種を配布するのではなく、一度植えた花から種を取り、翌年度その種を植えて育てることや、絶滅危惧種の育苗を増やすなど、ストーリー性があるものをYouTubeでPRしたらどうか。	水谷委員
学校側としては、グリーンバンクはいつも同じ球根をくれるところという認識になっている可能性があるため、配布する花苗の選択肢を増やしてはどうか。	渡邊委員

発言内容	発言者
配る側であるグリーンバンクの都合や事情を説明し、受け取る側の意識を改革していくのが良いのではないかと。地域の花の会や有識者と連携し、受け取る側に自分たちの力で継続して育てる力を養うべきだと考える。	渡邊委員
学校花壇に植えられる花は、時代によりある程度の傾向はあるものの、多くはチューリップ、ひまわりなど定番のものに固定されていることが多い。グリーンバンクが継続して取り組んできたことに成果があったとは思いますが、新たなチャレンジにも取り組んでほしい。	飯塚委員

●取組番号2 花の都づくり（農芸振興課）

発言内容	発言者
「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」のホームページ更新が少ないと感じるため、更新は頻繁に行った方が良い。また、写真を掲載するだけでなく、リールで行なうと視聴数が伸びる。インスタグラムのリールなどを活用していくと良い。	矢澤委員

●取組番号3 花育活動（寄せ植え）（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
ユーチューブによる広報は季節ごと、花の種類ごとのように、動画の種類をさらに増やすと良い。ユーチューブを積極的に活用すべきである。	矢澤委員

●取組番号6 しずおか棚田・里地くらぶ（農地保全課）

発言内容	発言者
「しずおか棚田・里地くらぶ」についてPRを行うことは良いと考えるが、実際に棚田を維持する農家のサポートを行うことが大切だと考える。農家へのサポートとして、県では何か考えていることはあるのか。	西森委員
田植や稲刈りだけ手伝いに来るような短期的なサポートのみでは棚田の維持は難しく、逆に地域、農家には足かせや負担になってしまうこともある。県はこのような問題に対して、根本的な対策を行なうべきである。具体的な対策として、棚田の買い取りなどがあげられ、そのような組織や団体があれば良いと考える。	
棚田を維持していくためには、長期的に棚田に携わることができるプロデューサー的な人材が必要であると考えます。	飯塚委員

発言内容	発言者
棚田を維持していくためには、マンパワーが必要だと考える。短期的、スポット的ではなく、継続的なサポートを続けるべきである。	水谷委員
農業自体が高付加価値のものしか生き残れない時代になっているため、棚田もどのような価値を生み出していくのか考えていく必要があるのではないかと。	西森委員

●取組番号 8-1 豊かな暮らし空間創生（住まいづくり課）

発言内容	発言者
豊かな暮らし空間創生住宅地の具体的な認定基準は何か。緑化推進にあたり、認定された場所はその後の維持管理ができていくのか確認したい。	西森委員
私有地にある緑の維持管理は容易ではないため、県として私有地の緑化に取り組むのであれば、積極的にPRしてほしい。	飯塚委員

●取組番号 8-2 安全で美しいいえなみ整備（住まいづくり課）

発言内容	発言者
年間の予算執行が少なすぎると感じる。県ではどのくらい補助を行っているのか。県が直に補助を行う制度にすれば良いのではないかと。	西森委員
他の県、自治体の事例研究や、景観形成で似た制度調査を行なうべきである。また、静岡県交通基盤部都市局にも景観形成に関する補助制度があるが、住み分けを確認したい。	水谷委員

●取組番号 9-11 芝生関連事業（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
現在暑さに強い芝が求められており、そのような芝の品種改良や暑さへの対応を研究するべきである。また、暑さに強い芝の品種を県有施設に入れることは可能か検討してほしい。	矢澤委員

●取組番号 25 森づくり県民大作戦（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
森づくり県民大作戦の具体的な内容について知りたい。	矢澤委員
業者から買って来た苗を使用すると、森が遺伝的に変わってしまい、本当の意味での森の再生ではないと考える。植樹で使用する苗はその森でとれた種を育てたものにするべきであり、森の役割についてもきちんと教えるべきである。	

●取組番号 26 しずおか未来の森サポーター（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
予算はどのように使われているのか。苗木などに使われているのか確認したい。	西森委員
どれくらい効果が上がっているのかなど、費用対効果について確認したい。	

●取組番号 27 ふじのくに森の防潮堤づくり（森林保全課）

発言内容	発言者
予算が0になっているが、見学会や植樹祭、苗木代等どのように支出しているのか確認したい。	西森委員
各関係者、関係機関の協働で実施している事業であるため、実績欄には、協力している市、地元企業、地元住民等について具体的に詳しく記載してほしい。	飯塚委員

●その他（脱炭素に関する取組）

発言内容	発言者
脱炭素は非常に大切なことなので、県としては横断的に一体となって取り組むべきである。また、植林や木材利用等は教育の場でしっかりと教えるべきだと考える。	西森委員
脱炭素はグリーンバンクだけの取組ではなく、県の横断的な取組として進めてほしい。	水谷委員
木材利用の推進よりは、これまでグリーンバンクが取り組んできた都市緑化に即した気候変動対策の方が、グリーンバンクが行なっている他の取組とも親和性があり、効果的ではないかと考える。	
施業林だけでなく、身近な里地里山にもウッドチェンジの視点を取り入れてほしい。手入れされた里地里山があつて初めて森の恵みを手に入れることができると考える。	飯塚委員